学校番号	３０８

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学 A	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　最新「数学 A」　（数研出版）						
副教材等	改訂版　3ROUND 数学 A　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・中学校までの学習内容を必要に応じて振り返りながら，高等学校の内容を学習していきます.
・数学の力として「計算力」「論理力」「想像力」があります。受身ばかりでは数学を理解することはできません。“何故か”を常に考え、推論を立て、それを裏付ける計算・論理を構築することを繰り返して下さい。また習った事の理解のみに止まらず、“ではこの場合はどうなるか”と発展的な意識の元で学習に臨みましょう。教員への質問も積極的にしてください。
・ノートは，問題集用と授業用で別に用意して下さい。
・問題集用のノートについては定期的に提出を求めます．当然ですが，答え合わせもしてください。考査前に慌ててやるのではなく，毎時間，自宅学習として授業で扱った範囲の問題を解いておくようにして下さい。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
【思考力、判断力、表現力等】事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようになるとともに，それらを活用する力を育てる。
【学びに向かう力、人間性等】数学を適切に活用するとともに、実生活における数学的問題に主体的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	第１章　場合の数と確率 第１節　場合の数	１．集合（1.5） ２.集合の要素の個数(2.5) ３．樹形図，和の法則，積の法則（2） ４．順列（2） ５．円順列と重複順列（2） ６．組合せ（4）	a：共通部分、和集合、補集合など求めることができ、要素を書き並べ、要素の個数を求める事ができる。補集合の要素の個数の公式を用いることができる。樹形図や和の法則，積の法則を用いて，場合の数を求めることができる。順列・円順列・重複順列・組み合わせの用語，記号，公式を理解し，利用できる。組分けの問題を処理できる。同じものを含む順列の総数を求めることができる。 b：集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。ベン図を利用して集合を図示することで,要素の個数を考察することができる。具体的な問題を通じて，どのような場合に順列・円順列・重複順列･組み合わせの考え方が適用できるかを見極めることができる。同じものを含む順列を，組合せで考察することができる。 c：集合を考えることで，日常的な事柄などを,集合の要素の個数として数学的に数えようとする。順列，円順列，重複順列の違いに興味・関心をもつ。組合せの考え方を利用して,図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。	小テスト 定期考査 小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定期考査 パフォーマンス課題 定期考査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り 授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り

2学期	第1章　場合の数と確率　第2節　確率	7．確率の意味（1） 8．確率の計算（2） 9．確率の基本性質（2） 10．和事象の確率（2） 11．余事象の確率（2） 12．独立な試行の確率（1） 13．反復試行の確率（2） 14．条件付き確率（3） 15．期待値（1）	a：確率の意味を理解している。確率の定義に基づき，事象の確率を求めることができる。積事象，和事象の意味を理解し，具体的な事象に対して，積事象，和事象を集合で表すことができる。確率の加法定理を用いて，和事象の確率を求めることができる。余事象の確率の公式を利用して，確率を求めることができる。独立な試行の確率を，公式を用いて求めることができる。反復試行の確率を，公式を用いて求めることができる。 b：試行の結果を事象としてとらえ，事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。補集合をもとに，余事象を考察することができる。2つの独立な試行を行うとき，その結果として起こる事象の確率について考察することができる。反復試行の確率を，具体的な例から直観的に考えることができる。 c：身近な試行によって起こる事象と関連づけながら，実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。和事象，積事象，排反，空事象，確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。一般の和事象の確率を集合と関連づけて考察しようとする。独立な試行の確率について，興味をもって調べようとする。具体的事象について，反復試行の確率を，興味をもって調べようとする。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定期考査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り

	第2章　図形の性質　第1節　三角形の性質	１．角の二等分線の比（3） ２．三角形の外心，内心，重心（3） ３．チェバの定理・メネラウスの定理（2） 研究　三角形の辺と角（1）	a：平行線の性質を用いて，線分の長さを求めることができる。線分の内分と外分を理解し，内分する点と外分する点を図示することができる。三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて，線分の長さを求めることができる。外心・内心・重心の性質を用いて，具体的な問題を処理できる。三角形の面積と線分の比の性質をを理解している。チェバの定理・メネラウスの定理を用いて，線分比を求めることができる。 b：証明する際に，適当な補助線を引いて考察することができる。図形の性質を証明するのに，間接的な証明法である同一法を適用することができる。チェバの定理，メネラウスの定理について，論理的に考察し，証明することができる。三角形の辺と角の大小関係や，三角形の存在条件を理解している。 c：線分を分ける点や，三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。三角形の3辺の垂直二等分線・三角形の3つの角の二等分線･三角形の3本の中線が 1 点で交わることの証明方法に関心をもつ。三角形の面積と線分の比の性質のの証明方法に関心をもつ。チェバの定理・メネラウスの定理の証明方法に関心をもつ。身近な問題に対し，チェバの定理を活用できることを理解し，図形の性質に興味・関心をもつ。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定期考査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り

3学期	第2章 図形の性質 第2節 円の性質	4．円周角の定理（1） 5．円に内接する四角形（2） 6．円と接線（2） 7．接線と弦の作る角（2） 8．方べきの定理（2） 9．2つの円（2）	a：中学校で学んだ円周角の定理やその逆について理解している。円周角の定理を用いて，角の大きさを求めることができる。円周角の定理の逆を用いて，4点が同一円周上にあることを調べることができる。円に内接する四角形の性質を用いて，角の大きさを求めることができる。円の接線の性質を用いて，辺や線分の長さを求めることができる。接線と弦の作る角の定理を利用して，角の大きさを求めることができる。方べきの定理を用いて，線分の長さを求めることができる。2円の位置関係に5つの場合があることを理解している。2円の共通接線について理解し，その長さを求めることができる。 b：三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し，円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとする。接線と弦の作る角についての定理を証明する際に場合分けをしながら考察することができる。方べきの定理は，円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。2円の位置関係を，動的な面から観察することができる。 c：三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し，円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとする。接線と弦の作る角についての定理を証明する際に，鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定期考査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度